



理事長先生が日常お茶を飲みながら話す事を、不定期に掲載する事になりました。講演会とはちょっと違うお話も今後聞けるかもしれません。お楽しみに。

プールが怖かった女の子

初日は怖くて長い時間泣いていました。次の日、行った時には笑顔で、水と戯れていました。子どもは整った環境があれば、乗り越えられる力を持っているんだ！と理解した瞬間でしたが、親としては、怖がる光景を見たら、無理にさせなくても良いと思われる方が多いのでは？と理事長に質問してみました。



こういうのを見るとすぐ大人はさせない。ストップをかける。そういう『考え方』が甘やかし。甘やかしよ。

子どもはね、こういうのをば乗り越えて大きくなる。子どもってね本来頑張ることが好きなの我慢することも好きよ。なぜかという子どもってというのは将来を考えてるから、大きくなりたいんだと成長したいんだっていう本能欲求を持っているから、だから頑張る事も大好き。我慢することも本当は好きなんだけど。(水が) たまたまこうやって、初めての世界だから怖がったというだけの話。それを、次の段階に進ませるために我々はいっぱい工夫してる。例えば(その工夫をしてなければ) もっと泣いていたかもしれない。必ず5歳くらいになるとこういう日(プール) が来るのがわかっているから前もってシャワーを頭からかけてやるとかそれから、顔を水につける事が出来るように持って行くとか。それだけじゃなくて。我々は保育園だから(もっと出来る事をやる) このゴーグルをちゃんと着けさせてきちんとその子に合わせてゴム調整もしてやる。曇り止めも塗る、髪の毛が長いから、目に落ちて来るから、まだ水に慣れないからね、こっち(保育園側) できちんと髪の毛を入れてやる。普通は曇ってるんだけど、みんなちゃんと目が見えてるがね。そういうのをきちんとしてプールに臨ませるという。

初めての事は人間は怖いがね、大人だってね、不安がある。それを乗り越えないと

次が待っていないし、小学校に行くと6月ぐらいで水泳が始まる。怖い子はガタガタ震えてる。おまけに寒いがね。私が子どもに一番してはならないと考える事は劣等感をつけさせてはダメ！ということ。幼児期に潜れさえすれば、水泳が楽しくてしょうがなくなる。そこで達成感とか成功体験とかに我々は意図して繋げて行くんだ！っていう発想で取り組んでるヨコミネ式水泳なんです。

